

令和4年度 授業改善推進プラン

学年 3 年	教科 国語	授業者 江原彰人 竹中有希
--------	-------	---------------

1. 教科の目標：育成したい3つの資質・能力

知識及び技能 思考力、判断力、表現力等 学びに向かう力、人間性等

2. 生徒の現状

(1) 「令和4年度全国学力・学習状況調査」の分析

生徒質問紙結果分析	観点別結果分析
「普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか」という問いに対して、「全くしない」割合が過半数を超えており、都や全国の平均を大きく下回っていた。また、国語の授業の内容の理解度についても、都や全国の平均と比べて課題が見られる。	殆どの問いで正答率が都・全国平均を上回っていた。しかし、自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことに課題がある。また、資料から必要な情報を適切に引用して文章を書くことに課題がある。どの部分を引用して根拠となる事実とするかを考えさせ、文末表現などを意見と区別して文章を書く活動を取り入れ、習熟させることが大切である。

(2) その他の資料等を活用した分析

活用した資料等	分析結果
令和4年度 「児童・生徒の学力向上を図るための調査」	「発表や話し合いのときは、話す内容や順序を考えてから話している。」という問いに対し、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた生徒の割合は87.1%と、都平均79.6%を大きく上回っており、話すことに対する意欲の高さがうかがえる。一方、漢字の「漢字の部首の意味も考えながら覚えている」という問いに対しては、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計が都平均を7%近く下回っている。

3. 授業改善策（上記2（1）（2）を踏まえて）

改善の観点	具体的な改善策
<ul style="list-style-type: none"> 根拠を明確にして文章を書く能力の向上 知識・技能の定着 	<ul style="list-style-type: none"> 引用と事実、意見を区別して書く作文の練習機会を増やす。 作文練習をchromebookを用いて行い、互いの作文を共有したり添削することで、文章の書き方やまとめ方に多く触れる。 AIドリル、小テストの活用頻度を高める。

令和4年度 授業改善推進プラン

学年 3 年	教科 数学	授業者 緒方、久保田
--------	-------	------------

1. 教科の目標：育成したい3つの資質・能力

知識及び技能 思考力、判断力、表現力等 学びに向かう力、人間性等

2. 生徒の現状

(1) 「令和4年度全国学力・学習状況調査」の分析

生徒質問紙結果分析	観点別結果分析
数学の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか。という問いに対し、当てはまる、どちらかと言えば当てはまると答えた生徒が58%しかおらず、学んだことを生かそうとすることに課題がある。	筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明することに課題がある。結論を導くために何が分かればよいかを明らかにしたり、与えられた条件を整理したり、着目すべき性質や関係を見いだし、事柄が成り立つ理由を筋道を立てて考えたりする活動を取り入れ、事柄が成り立つ理由について数学的に説明できるよう指導することが大切である。

(2) その他の資料等を活用した分析

活用した資料等	分析結果
令和4年度 「児童・生徒の学力向上を図るための調査」	「数学で学習した言葉を使って自分の考え方を説明している。」という問いに対し、当てはまる、どちらかと言えば当てはまると答えた生徒が79.9%おり、都の平均61.1%を大きく上回っている。また「式と答えだけではなく、途中の計算も書いている。」という問いに対し、90.4%の生徒が当てはまるとどちらかと言えばあてはまると回答し都平均を大きく上回っている。

3. 授業改善策（上記2（1）（2）を踏まえて）

改善の観点	具体的な改善策
筋道を立てて考える力	・途中式を書き、自分の考えを説明することについてはかなりの生徒が出来ているので、その力を土台にし筋道を立てて考える力を伸ばすために授業内で協同学習を多く取り入れ、自分の考えを相手に伝える機会を増やす。
普段の生活の中での数学的視点で物事を考える力	数学の授業で学んだことを普段の生活の中に取り入れ考える機会が現状足りていないので、知識技能の定着をAIソフトを使って授業内で扱う時間を減らし、日常生活に数学を落とし込んだ内容の授業を増やしていく。

令和4年度 授業改善推進プラン

学年 3 年	教科 理科	授業者 佐多幸村 杉本大作
--------	-------	---------------

1. 教科の目標：育成したい3つの資質・能力

知識及び技能 思考力、判断力、表現力等 学びに向かう力、人間性等

2. 生徒の現状

(1) 「令和4年度全国学力・学習状況調査」の分析

生徒質問紙結果分析	観点別結果分析
平均点が、全国・都より高いが、「理科の勉強が好きですか」の問いに、それほどあてはまらないが全国・都と比べ、非常に高い数値になっている。一方、「理科の勉強は大切だと思いますか」の問いは、9割近い生徒が大切だと思っている。	知識技能50.2%、思考判断表現54.5%とあまり変わらない。ただ今回の結果は、選択肢を要するものであるための結果だと考えられる。

(2) その他の資料等を活用した分析

活用した資料等	分析結果
・単元テスト ・期末テスト ・小テスト	知識・技能の問題であれば、正答率は高くなる。また、選択問題でも正答率は上がる。しかし、思考問題、説明問題等、文章を書かせること、説明させることにおいては、平均点が、大幅に下がる。その差が通常より大きいようである。

3. 授業改善策（上記2（1）（2）を踏まえて）

改善の観点	具体的な改善策
-------	---------

<ul style="list-style-type: none"> ・理科に対し、興味関心をもたせる。 ・思考力、判断力、表現力をもたせる。 ・基礎的な知識にも力を入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業、実験に際し、必ず実例、日常とのつながりをもたせるように、工夫する。 ・実験等で行う「考察する」項目を増やすことで、思考力等の力をのばす。 ・朝学習等を利用し、基礎知識をのばす工夫をする。
--	---

様式2 日野市学力調査実施(1年国数理英)

令和4年度 授業改善推進プラン

学年 1 年	教科 国語	授業者 佐藤 麻由
--------	-------	-----------

1. 教科の目標：育成したい3つの資質・能力

知識及び技能 思考力、判断力、表現力等 学びに向かう力、人間性等

2. 生徒の現状

(1) 「令和4年度日野市学力調査」の分析

生徒質問紙結果分析	観点別結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・「自分の思いを伝え、周囲と交流し合っている」という項目では、日野市に比べて肯定的な回答が少なかった。 ・「自分が書いた文章を推敲している」と答えた生徒は85%以上と、肯定的に捉えている生徒が多いことが読み取れた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・応用・記述式問題は、全国や日野市と比較して正答率が上回る結果となった。一方、基礎問題・短答式問題では、日野市と比較して正答率がわずかに下回っていた。 ・読むこと、書くことの領域において、理解度に大きな差があることが読み取れた。

(2) その他の資料等を活用した分析

活用した資料等	分析結果
<ul style="list-style-type: none"> ・作文プリント ・期末考査 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の進捗や完成度に大きなばらつきがあった。 ・漢字の正答率が低かった。

3. 授業改善策（上記2（1）（2）を踏まえて）

改善の観点	具体的な改善策
<ul style="list-style-type: none"> ・「文章の推敲を行っている」と答える生徒が多い一方で、書くことの正答率が低い。 ・周囲と協働する力が弱い ・読むこと・書くことの理解度の差 	<p>「客観的・多角的な視点から自分の文を評価する力をつける。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他者と文章を評価し合ったり、互いに教え合ったりする機会を増やす。 ・補助プリントや難易度別の課題を提示するなど、個人の能力に応じた学習が行なえるようにする。

様式2 日野市学力調査実施(1年国数理英)

令和4年度 授業改善推進プラン

学年 1 年	教科 数学	授業者 久保田、曾田
--------	-------	------------

1. 教科の目標：育成したい3つの資質・能力

知識及び技能 思考力、判断力、表現力等 学びに向かう力、人間性等

2. 生徒の現状

(1) 「令和4年度日野市学力調査」の分析

生徒質問紙結果分析	観点別結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・数学を便利だと思う生徒や、これまでの学習内容をどう活かせるか考えようとする生徒が約90%と肯定的に捉えている生徒が多かった。 ・結果をまとめるときに統計の考えを活かしている生徒やもう一度解き方を振り返ってより良い解き方を考える生徒が約70%と他の質問より、肯定的に捉える生徒が低い傾向が読み取れた。 ・数学の好き嫌いについて、A層とD層の差が約40%と全教科で最も多く差が開いていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・知識技能の平均正答率が68.6%、思考判断表現の平均正答率が44.8%で、全国と日野市のどちらよりも高い結果となっている。 ・単元に着目すると、分数の計算や面積・体積、データの活用の理解度に大きな差があることが読み取れた。

(2) その他の資料等を活用した分析

活用した資料等	分析結果
<ul style="list-style-type: none"> ・期末考査 ・再テスト(期末後) 	<ul style="list-style-type: none"> ・期末考査返却後すぐの授業で行った再テストでは、平均点が約18点伸び、98%以上の生徒が期末考査より得点が上がった。 ・再テストに向けて、解き直しや復習など自己の学習を調整して取り組んでいたことがわかった。 ・D層の生徒にとって自信がつく学びの成功体験の場となった。

3. 授業改善策（上記2（1）（2）を踏まえて）

改善の観点	具体的な改善策
<ul style="list-style-type: none"> ・知識技能の定着の個人差が大きい。 ・学びに向かう力の育成。 	<ul style="list-style-type: none"> ・AIDリルを活用して、個別最適化した学びになるようにする。 ・小テストを適宜行い、個々の定着状況を見取り、的確な助言を行う。 ・再テストを継続して行い、成功体験の場をつくる。

様式2 日野市学力調査実施（1年国数理英）

令和4年度 授業改善推進プラン

学年 1 年	教科 理科	授業者 恒田
--------	-------	--------

1. 教科の目標：育成したい3つの資質・能力

知識及び技能 思考力、判断力、表現力等 学びに向かう力、人間性等

2. 生徒の現状

（1）「令和4年度日野市学力調査」の分析

生徒質問紙結果分析	観点別結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・理科の好き嫌いについて、A層とD層の差が27%、理解度では30%と大きな差があった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・知識技能の平均正答率が全国平均より-7.4%、思考判断表現の平均正答率が-2.2%で、総合的に全国平均より下回っている結果となった。 ・単元に着目すると、人の体のつくりとはたらき、植物の養分と水の通り道の問題で全国平均より大きく下回っていた。また、水溶液の性質、土地のつくりと変化の問題で理解度の差が大きいことが読み取れた。

（2）その他の資料等を活用した分析

活用した資料等	分析結果
<ul style="list-style-type: none"> ・単元テスト ・期末テスト ・小テスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎時間クロームブックで取り組む小テストで繰り返し取り組む問題は単元テストや期末テストで正答率が高かった。また、小テストの振り返りを毎時間行うことで、課題意識を持って学習し、小テストの正答率が年度当初より上がってきた。 ・植物の名前など、具体的な例を選び出す問題で正答率が低かった。 ・植物の分野など、小学校の休校期間や実験を行えなかったものの基礎問題の正答率が低く、定着率に差がある。

3. 授業改善策（上記2（1）（2）を踏まえて）

改善の観点	具体的な改善策
<ul style="list-style-type: none"> ・学習を計画し、取り組む力を身につける。 ・思考力、判断力、表現力 ・基礎的な知識 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎時間の小テストの振り返りから、自分の定着が低い学習内容を把握し、課題意識を持つように促す。 ・2学期に行う化学と物理の単元で実験が増えるため、実験の考察を通して、全国平均より低い思考力、判断力、表現力の向上を目指す。 ・小学校で学習した内容や、日常生活で触れ合う科学的な知識など、疑問に思ったときにすぐ調べて定着できるように、クローズドブックを使った授業を展開していく。

様式2 日野市学力調査実施（1年国数理英）

令和4年度 授業改善推進プラン

学年 1 年	教科 英語	授業者 菅・宮崎・木内・並木・山本・熊澤
--------	-------	----------------------

1. 教科の目標：育成したい3つの資質・能力

知識及び技能 思考力、判断力、表現力等 学びに向かう力、人間性等

2. 生徒の現状

（1）「令和4年度日野市学力調査」の分析

生徒質問紙結果分析	観点別結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・英語の好き嫌いについて、A層とD層の差が34.8%、理解度では39.7%と大きな差があった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・知識・技能の達成率は84.9%、思考・判断・表現の達成率は89.6%で、全国平均は上回っているが、日野市平均は若干下回る結果となっている。知識・技能の観点の、時刻を聞き取る問題や、アルファベットの小文字を書く問題でA層とD層の差が50%以上ある。

（2）その他の資料等を活用した分析

活用した資料等	分析結果
<ul style="list-style-type: none"> ・1学期期末考査 	<ul style="list-style-type: none"> ・聞くことや読むことについては、知識・技能、思考・判断・表現いずれの観点の問題でも、平均正答率が80%を超えている。一方書くことについては、教科書本文の単語を書く知識の問題の平均正答率が52.8%、自己紹介の英文を書く思考・判断・表現の問題が70.9%と低い。
<ul style="list-style-type: none"> ・1学期教科別成績一覧表 	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に学習に取り組む態度の観点において16%がC評価であり、3観点の中で一番多い。

--	--

3. 授業改善策（上記2（1）（2）を踏まえて）

改善の観点	具体的な改善策
<ul style="list-style-type: none"> ・知識・技能の定着 ・粘り強く、調整しながら学習に取り組む力の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・場面を意識した語彙指導の繰り返し、デジタル教科書を活用した音読指導の強化から、ライティングノートを活用した家庭学習で書く力につなげる。 ・主体的に学習に取り組む態度の評価材料やルーブリックを明確に示すとともに、授業中での見取り、フィードバックを増やし、パフォーマンステストの中で評価する。

様式3 5科

令和4年度 授業改善推進プラン

学年 1 年	教科 社会	授業者 飯塚 修爽
--------	-------	-----------

1. 教科の目標：育成したい3つの資質・能力

知識及び技能 思考力、判断力、表現力等 学びに向かう力、人間性等

2. 生徒の現状

◆授業の資料等を活用した分析

（定期考査、振り返りシート、授業中の取組、実技、パフォーマンス課題、独自のアンケート等）

活用した資料等	分析結果
令和4年度1学期教科別成績一覧表	<p>観点別の割合をみると、「主体的に学習に取り組む態度」の評価でA(達成率80%以上)となった生徒が、「知識及び技能」と比べて約2倍、「思考力・判断力・表現力」と比べて約1.5倍となった。また、「主体的に学習に取り組む態度」の評価でC(達成率50%未満)となった生徒は、他の2観点の2分の1程度である。</p> <p>このことから、「主体的に学習に取り組む態度」の評価は、他の2観点と比べて達成しやすい状態であり、若干の不均衡が生じている。</p>

3. 授業改善策（上記2（1）（2）を踏まえて）

改善の観点	具体的な改善策

<p>「主体的に学習に取り組む態度」の評価に際しては、自らの学習を調整しようとする側面だけでなく、「知識及び技能」を獲得したり、「思考力・判断力・表現力」等を身に付けていくことに向けた粘り強い取り組みを行おうとしている側面という2つの側面を評価することが必要。</p>	<p>「主体的に学習に取り組む態度」を見とる課題を行う際、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ルーブリックを提示し、生徒自身が目標を定めて課題に取り組めるようにする。 ・ICT機器を活用し、生徒の取り組みの過程や成果に対して、教員からのフィードバックを行う。
--	--

様式3 5科

令和4年度 授業改善推進プラン

学年 2 年	教科 国語	授業者 根岸ひろ子
--------	-------	-----------

1. 教科の目標：育成したい3つの資質・能力

知識及び技能 思考力、判断力、表現力等 学びに向かう力、人間性等

2. 生徒の現状

◆授業の資料等を活用した分析

(定期考査、振り返りシート、授業中の取組、実技、パフォーマンス課題、独自のアンケート等)

活用した資料等	分析結果
単元テスト 定期考査 振り返りシート	<p>テスト全体の平均正答率は約70%であるが、知識・技能の平均正答率は、思考・判断・表現の平均正答率より10%位低い。特に漢字については、読むことは比較的できるが、書く問題についての正答率が低い。</p> <p>振り返りシートからも、漢字を書くことに苦手意識を持つ生徒が多いことが分かった。</p>

3. 授業改善策（上記2（1）（2）を踏まえて）

改善の観点	具体的な改善策
知識・技能の定着	<p>单元ごとに漢字の小テストを行う。 覚えて書くことの楽しさを伝えたい。</p>

様式3 5科

令和4年度 授業改善推進プラン

学年 2 年	教科 数学	授業者 池田 景子
--------	-------	-----------

1. 教科の目標：育成したい3つの資質・能力

知識及び技能 思考力、判断力、表現力等 学びに向かう力、人間性等

2. 生徒の現状

◆授業の資料等を活用した分析

(定期考査、振り返りシート、授業中の取組、実技、パフォーマンス課題、独自のアンケート等)

活用した資料等	分析結果
单元テスト 期末考査	<p>单元テストでは、知識技能を問う問題への正答率が62.9%、思考判断表現を問う問題への正答率は35.8%であったが、期末テストでは、知識技能を問う問題への正答率が53.6%、思考判断表現を問う問題への正答率が40%であった。</p> <p>これらのことから以下のことがいえる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知識・技能について 单元テストから期末テストについて正答率が下がっている。これは解き方を理解するだけでなく、技能として問題を解く練習が不足していると考えられる。 ・思考・判断・表現について 单元テストから期末テストについて正答率が上がっている。文字と式のパフォーマンス課題では、白紙の生徒がほとんど見られないなど記述問題へは書こうとする姿勢が高まってきている。一方で的確に表現できていない生徒も多い。

3. 授業改善策（上記2（1）（2）を踏まえて）

改善の観点	具体的な改善策
知識から技能の定着へ	授業内で定期的に小テストを実施し、自己理解を深め、仮定での主体的な学習へ繋げる。
数学用語を用いた表現力の向上	パフォーマンス課題を単元の終わりに実施し、学習した内容を使って数学用語を用いて表現する力を向上させる。

様式3 5科

令和4年度 授業改善推進プラン

学年 2 年	教科 英語	授業者 宮崎太樹
--------	-------	----------

1. 教科の目標：育成したい3つの資質・能力

知識及び技能 思考力、判断力、表現力等 学びに向かう力、人間性等

2. 生徒の現状

◆授業の資料等を活用した分析

（定期考査、振り返りシート、授業中の取組、実技、パフォーマンス課題、独自のアンケート等）

活用した資料等	分析結果
---------	------

<p>期末考査</p>	<p>知識・技能の平均正答率は約70%であるが、思考・判断・表現の平均正答率は約50%である。特に書くことに関して、正答率が低い生徒が多い。 このことから、思考・判断・表現の分野の、特に書くことに関連する取り組みを授業内で改善していく必要がある。</p>
-------------	---

3. 授業改善策（上記2（1）（2）を踏まえて）

改善の観点	具体的な改善策
自己表現の書くこと	授業内で小テストを複数回行い、その度に自己採点して改善点を明確にし、家庭学習での主体的な学びにつなげる。
情報を活用して書くこと	授業内で小テストを複数回行い、4人組学習班でお互いの解答を見合い、助言するというを行って、家庭学習での主体的な学びにつなげる。

様式3 5科

令和4年度 授業改善推進プラン

学年 2 年	教科 理科	授業者 高野・加藤
--------	-------	-----------

1. 教科の目標：育成したい3つの資質・能力

知識及び技能 思考力、判断力、表現力等 学びに向かう力、人間性等

2. 生徒の現状

◆授業の資料等を活用した分析

（定期考査、振り返りシート、授業中の取組、実技、パフォーマンス課題、独自のアンケート等）

活用した資料等	分析結果
<ul style="list-style-type: none"> ・全国学力・学習状況調査(理科) ・提出課題のアンケート(独自) ・パフォーマンス課題(独自) 	<p>・本校の学習調査の結果(理科)はおおよそ東京都・全国の平均値。優位性が見られるほどではない。</p> <p>・「成績のつける方法」について独自アンケートを実施したところ、43%は「今のまま(考査及び適度な課題)」を求めている。次点は「もっと課題を増やしてほしい(13%)」「考査はなくして課題のみで成績をつけて欲しい(12%)」という結果となった。また、課題内容によるという意見がおおよそ30%を占めた。</p> <p>・パフォーマンス課題として、①「出題問題がわかっている小テスト(難易度高め)」を提示したところ、35%が上位点(16点～20点)という結果となった。②「期末考査の解きなおし(何回でもよい)」を提示したところ、おおよそ60%の生徒が上位点(45点～50点)を取得するという結果となった。</p> <p>⇒適度な課題を求めている(努力できる)一方で、努力の仕方がわからない場合は諦める・嫌いになる傾向</p>

3. 授業改善策(上記2(1)(2)を踏まえて)

改善の観点	具体的な改善策
明確な課題の提示	課題はこのままの量もしくは少し増加した形で示す一方で、取り組みやすい(努力の仕方がわかる)ような示し方及び課題内容を提示していく。
授業内容(課題)を魅力的に	上記の結果より、「課題は大事だが、取り組みたい(たのしい)と思える課題であるかどうか」も重要な要素である。「未来(受験や将来)のため」ではなくて、思わずやりたくなる、調べたくなる・気になるような課題及び試験問題を作る視点を忘れないようにする。具体案として、実生活や自己の将来とつながりが感じられる授業・課題を提示する。

様式3 5科

令和4年度 授業改善推進プラン

学年 2 年	教科 社会	授業者 江口 好信
--------	-------	-----------

1. 教科の目標：育成したい3つの資質・能力

知識及び技能 思考力、判断力、表現力等 学びに向かう力、人間性等

2. 生徒の現状

◆授業の資料等を活用した分析

(定期考査、振り返りシート、授業中の取組、実技、パフォーマンス課題、独自のアンケート等)

活用した資料等	分析結果
---------	------

1学期教科別成績一覧表	<p>観点別の割合で見ると「知識・技能」「主体的に学習に取り組む態度」のA評価の割合は共に40%ほどであったが、「思考・判断・表現」でA評価の割合は30%ほどであった。B評価の割合が3観点とも同程度の割合であったため、「思考・判断・表現」の割合が他の二観点が20%ほどであった一方で30%近くになっている。</p> <p>このことから「思考・判断・表現」に対する評価の改善をする必要がある。</p>
-------------	---

3. 授業改善策（上記2（1）（2）を踏まえて）

改善の観点	具体的な改善策
思考・判断・表現	<p>授業内のワークシートにて各單元ごとに「思考・判断・表現」を問う課題を設定し、単元のまとめの際に評価するようにする。また、パフォーマンス課題を授業内で設定し、知識に偏らない授業を展開する。</p> <p>ICT機器を活用し、文章表現のみに留まらない課題設定の工夫を行う。</p> <p>細かに評価の規準を明示し、見通しをもって課題に取り組めるようにし、全体でのフィードバックを行い、より多面的・多角的な視点をもって「思考・判断・表現」できるようにする。</p>

様式3 5科

令和4年度 授業改善推進プラン

学年 3 年	教科 英語	授業者 並木・山本拓美
--------	-------	-------------

1. 教科の目標：育成したい3つの資質・能力

知識及び技能 思考力、判断力、表現力等 学びに向かう力、人間性等

2. 生徒の現状

◆授業の資料等を活用した分析

（定期考査、振り返りシート、授業中の取組、実技、パフォーマンス課題、独自のアンケート等）

活用した資料等	分析結果
期末考査 パフォーマンステスト	知識・技能の平均正答率は74.6%であるが、思考・判断・表現の平均正答率は48.3%である。特に長い英文を読み取って概要をとらえるといった問題の正答率が低い生徒が多い。このことから、思考・判断・表現の分野の、特に読むことに関連する取り組みを授業内で改善していく必要がある。主体的に取り組む姿勢はでA評価を取っている生徒で、思考判断表現の観点もAになっている生徒は8割を超えており、相関関係が見られた。

3. 授業改善策（上記2（1）（2）を踏まえて）

改善の観点	具体的な改善策
少し長めの英文を読むこと パフォーマンステストにおける主体的態度	授業内で教科書や副教材の長文を活用して、読解のポイントを明確にし、1語1語よむのではなく、概要をつかむように指導していき、読解力を身に付けさせていく。 単元ごとにパフォーマンステストを行い、その練習を毎時間帯活動で実施していく。帯活動では振り返りシートを活用し自分の課題を見つけさせ、家庭学習での主体的な学びにつなげる。また振り返りシートは、デジタルツールを活用し、教員だけでなく、生徒同士のコメント機能等の活用していく。

様式3 5科

令和4年度 授業改善推進プラン

学年 3 年	教科 社会	授業者 塚田、佐伯
--------	-------	-----------

1. 教科の目標：育成したい3つの資質・能力
 知識及び技能 思考力、判断力、表現力等 学びに向かう力、人間性等
2. 生徒の現状
 ◆授業の資料等を活用した分析
 （定期考査、振り返りシート、授業中の取組、実技、パフォーマンス課題、

独自のアンケート等)

活用した資料等	分析結果
令和4年度 教科別成績一覧表 1学期期末テスト 成績一覧表 テスト後振り返りアンケート(独自) 歴史の授業を振り返ってアンケート(独自)	知識・技能のA評価の割合が47.7%であるのに対し、思考・判断・表現のA評価の割合は24.3%と差がある。学習を通して得た知識を活用して、自分の言葉で意見を述べる力に課題がある。 歴史的分野における知識・技能の平均達成率は76%、思考・判断・表現の平均達成率は68%であった。一方で、公民的分野における知識・技能の平均達成率は53%、思考・判断・表現の平均達成率は47%であった。 独自のアンケートから、歴史的分野に比べてより抽象的な内容となる公民的分野への苦手意識があり、2学期以降の公民の学習に対して不安を感じている生徒が多いことが分かった。 また、テストを解く時間が余った(50分未満で解き終わった)生徒が77.1%であった一方で「答えが分かっていたのに1つ以上ミスをした」と回答した割合が92.4%と大変高かった。見直しの甘さや、時間内に文章の内容を理解して的確に答えること(読解力)に課題がある。

3. 授業改善策（上記2（1）（2）を踏まえて）

改善の観点	具体的な改善策
思考・判断・表現 自分の言葉で意見を述べること 読解力 公民的分野への苦手意識の克服	毎授業内で、他の生徒との意見交換や話し合いの時間を設け、自分の考えたことを言葉で表現できるようにする。また、クラスを越えての学び合いができるよう、Googleスプレッドシートを活用した意見交換の時間を適宜設ける。单元ごとに分かったこと・疑問に思ったことを整理して書く時間を設け、机間指導で個別にアドバイスができるようにする。 毎授業内で教科書から適切な語句を抜き出したり、説明を見つける時間を設ける。短時間でキーワードを見つける訓練をする。 中学生にとって身近な例や、視覚的教材を用いて、抽象的な内容を具体的にイメージできるようにする。地図帳や日々のニュースを活用した学習活動や、地元・日野市や東京を題材とした教材、クロムブックを用いた調べ学習を取り入れ、生徒自らが自身と社会とのつながりに興味を持ち、公民の学習へとつなげられるようにする。

様式4 4科

令和4年度 授業改善推進プラン

教科 音楽	授業者 萩原絵理子
-------	-----------

1. 教科の目標：育成したい3つの資質・能力

知識及び技能 思考力、判断力、表現力等 学びに向かう力、人間性等

2. 生徒の現状

◆授業の資料等を活用した分析

（定期考査、振り返りシート、授業中の取組、実技、パフォーマンス課題、

独自のアンケート等)

学 年	活用した資料等	分析結果
1 年	①定期考査・ワークシート ②実技テスト	①定期考査の知識の結果をみると授業に集中して取り組める生徒が多いと思われる。ワークシートなど内容はよいが提出を忘れる生徒が多い。 ②実技(歌唱)はクラスの雰囲気によって多少の差が出る。
2 年	①定期考査・ワークシート ②実技テスト	①定期考査の知識の結果が他学年より悪いが、ワークシートなど内容は自分の考えを文章表現出来る生徒が多い。 ②実技(歌唱)は全体的に女子の結果がよくない。
3 年	①定期考査・ワークシート ②実技テスト	①定期考査の知識の結果をみると授業に集中して取り組める生徒が多いと思われる。ワークシートなど内容はよいが提出を忘れる生徒が多い。 ②実技も3年目で慣れているせいか豊かな表現が出来る。

3. 授業改善策(上記2(1)(2)を踏まえて)

学 年	改善の観点	具体的な改善策
1 年	①ワークシートについて ②実技について	①授業時間内に取り組み、提出させられるように時間配分を工夫する。 ②合唱コンの取り組みで、クラスの雰囲気が大事なことを話し、chromebookなどを活用しパート練習で生徒同士の交流を増やす。
2 年	①ワークシートについて ②実技について	①その教材の重要点をワークシートに載せるだけでなく、記述させるなど確認出来る工夫をする。 ②合唱コンの取り組みの中で、chromebookなどを活用し生徒同士で交話し合い苦手意識をなくす。
3 年	①ワークシートについて ②実技について	①授業時間内に取り組み、提出させられるように時間配分を工夫する。 ②パートリーダーが中心となって曲を完成させられるように援助する。

様式4 4科

令和4年度 授業改善推進プラン

教科 美術

授業者 真下 善明

1. 教科の目標：育成したい3つの資質・能力

知識及び技能 思考力、判断力、表現力等 学びに向かう力、人間性等

2. 生徒の現状

◆授業の資料等を活用した分析

(定期考査、振り返りシート、授業中の取組、実技、パフォーマンス課題、独自のアンケート等)

学 年	活用した資料等	分析結果
1 年	ワークシート 作品	ワークシートで練習した技能や、言葉で確認した内容が、作品の表現に反映できていない生徒がいる。
2 年	定期考査	期末テストの平均点が、52.7点と低めで、得点の分布のピークが、40点台と60点台にできてしまった。知識の定着が不十分で、特に不十分な生徒が多い。
3 年	作品 振り返りシート	テーマを決めるなどに時間をかけすぎ、作品制作の時間が不十分になってしまう生徒が2割ほどいた。見込みを持って、着実に制作を進める事が出来ていないと考えられる。

3. 授業改善策（上記2（1）（2）を踏まえて）

学 年	改善の観点	具体的な改善策
1 年	練習した技能や、言語による知識を作品に活かせるように定着させる必要がある。	技能や知識を作品に反映させた具体例を、ICT機器活用して提示し、より具体的なイメージを持って、制作に取り組めるようにする。
2 年	知識に関する、資質・能力の定着を図る必要がある。	学習のまとめりごとにまとめのワークシートを用意し、知識の定着を図る。
3 年	学びに向かう力として、自己の作業の速さを認識し、計画的にコツコツと作業を進める力をつけたい。	テーマなどを考える構想の時間と、制作に充てられる時間を明示し、毎時間、予定のどの時間であるのか、確認しながら授業を進めるようにする。

様式4 4科

令和4年度 授業改善推進プラン

教科 保健体育	授業者 鶴見(1年) 佐々木・小田島(2年) 須田(3年)
---------	-------------------------------

1. 教科の目標：育成したい3つの資質・能力

知識及び技能 思考力、判断力、表現力等 学びに向かう力、人間性等

2. 生徒の現状

◆授業の資料等を活用した分析

(定期考査、振り返りシート、授業中の取組、実技、パフォーマンス課題、独自のアンケート等)

学 年	活用した資料等	分析結果
1 年	①Chromebookを活用したレポート、学習カード提出を行った。 ②定期考査を廃止し、単元終了毎に確認テストを行った。	①教員⇒生徒の一方通行になってしまうことがあったので、生徒⇒教員や生徒⇄生徒でコメントできるような工夫を行う。 ②単元後、すぐに実施することにより記憶の定着が図れた。
2 年	①定期考査を廃止し、単元終了毎に確認テストを行った。 ②Chromebookを活用した振り返りを行った。	①単元後、すぐに実施することにより記憶の定着が図れた。 ②Formsやスプレッドシートを活用し、振り返りを行うことができた。しかし、振り返りに対するコメントなどが教員だけになってしまった。
3 年	①定期考査を廃止し、単元終了毎に確認テストを行った。 ②Chromebookを活用した振り返りを行った。 ③模範演技の動画をclassroom投稿し、授業中にもみられるようにした。 ④教え合う場面を意図的に作り、学び合いの場を作った。	①単元後、すぐに実施することにより記憶の定着が図れた。しかし、長期定着しているかは分からない。 ②Formsやスプレッドシートを活用し、振り返りを行うことができた。しかし、振り返りに対するコメントなどが教員だけになってしまった。 ③模範演技を確認することでテスト勉強や技能上達に繋がったと感じる場面はあるが、全く見ていない生徒もいる。 ④グループを作り、教え合いも記録をするようにしたが、全くコミュニケーションをとれない生徒が数名いた。

3. 授業改善策（上記2（1）（2）を踏まえて）

学 年	改善の観点	具体的な改善策
1 年	①Chromebookの活用 ②学習カードの内容や提出について	①紙と電子のメリット、デメリットを踏まえて生徒が意欲的に学習に臨めるようにする。例えば、紙と電子の選択肢を設けたり、授業で使ったスライドをクラスルームに張り付けたりなど。 ②紙でも電子でも提出を忘れないように促したり、学習カードにはコメントでアドバイスしたりする。
2 年	①Chromebookの活用 ②評価	①個々で振り返りを作成したり、レポートを作成したが、考えを共有したり、意見を述べるができるようなICTの使い方を行う ②生徒が評価の内容を明確に把握できるように資料を作成し提示する。
3 年	①Chromebookの活用 ②評価	①振り返りは定着したが、考えを共有したりする機会がとれなかった。 ②評価について、生徒が何がAで何がBのかなどはつきり示すことができなかった。評価のための取組のようにならないように、指導と評価の一体化がすることで自然と評価に繋がるようにしたい。

様式4 4科

令和4年度 授業改善推進プラン

教科 技術・家庭	授業者 仙波(技術1, 2年) ・ 奥田(家庭1~3年)
----------	------------------------------

1. 教科の目標：育成したい3つの資質・能力
知識及び技能 思考力、判断力、表現力等 学びに向かう力、人間性等
2. 生徒の現状
◆授業の資料等を活用した分析
(定期考査、振り返りシート、授業中の取組、実技、パフォーマンス課題、独自のアンケート等)

学 年	活用した資料等	分析結果
1 年	<p>【技術】小テストの結果と、振り返りシートの評価の相関関係</p> <p>【家庭】 ・家庭科のみの評価資料</p>	<p>小テストの結果がA評価（達成率80%以上、全体の25%の生徒）の生徒のうち、振り返りシートの評価Aの生徒が77%。小テストがC評価（達成率50%未満、全体の21%の生徒）の生徒のうちC評価の生徒は69%。振り返りシートの取組状況とテスト結果に相関関係が見られた。</p> <p>知技（A40%、B46%、C14%） 思判表（A63%、B30%、C7%） 主（A48%、B 42%、C10%） 知識・技能／主体的な態度に置いてAを50%以上を目指していきたい</p>
2 年	<p>【技術】技術科だけの成績で算出した評価の分布資料</p> <p>【家庭】 ・家庭科のみの評価資料</p>	<p>C評価の全体における割合について、「知識・技能」が26%、「思考力・判断力・表現力」が35%、「主体的に学習に取り組む態度」が31%であった。パフォーマンス課題について自主的に取り組み、思考力や表現力を向上する場面に課題がある。</p> <p>知技（A20%、B50% C30%） 思判表（A46%、B42% C12%） 主（A46%、B41%、C13%） 知識・技能において、Aが少ない。35%を目標に改善していく。</p>
3 年	<p>【家庭】 ・家庭科のみの評価資料</p>	<p>知技（A50%、B39% C11%） 思判表（A41%、B36% C23%） 主（A41% B38% C21%） 思考判断、主体的な態度において、A50%以上を目指したい。</p>

3. 授業改善策（上記2（1）（2）を踏まえて）

学 年	改善の観点	具体的な改善策
1 年	<p>【技術】振り返りを行うことは知識の定着に一定の効果があると言えるため、適切に学習時間を確保し、生徒の主体的に取り組む態度を育成する。</p> <p>【家庭】 被服実習にて、作品の完成を目指していく姿勢を評価していく。</p>	<p>【技術】授業の終わりに学習の振り返りの時間を確保するために、デジタルコンテンツ等を有効に活用して、知識の教授に割く時間を短縮する。振り返りシートの取組について個別にコメントを返却し、学習方法の改善を図る。</p> <p>【家庭】 工程ごとに、制作の手順を考えさせ、実践にい活かして、知識・技能の定着・向上できるよう指導していく。また、教え合い学び合いの中で主体的な態度を育成していく。</p>
2 年	<p>【技術】パフォーマンス課題の中で、課題を設定したり、問題解決的な学習に取り組む活動を充実させる。</p> <p>【家庭】 被服実習にて、作品の完成を目指していく姿勢を評価していく。</p>	<p>【技術】動画コンテンツを活用したり、CBT形式の自主学習資料を作成したりして、パフォーマンス課題で自分の課題に向き合ったり、他者と協働する時間を十分に確保する。</p> <p>【家庭】 工程ごとに、制作の手順を考えさせ、実践にい活かして、知識・技能の定着・向上できるよう指導していく。</p>

3 年	【家庭】 被服実習にて、作品の完成を目指して いく姿勢を評価していく。	【家庭】 工程ごとに、制作の手順を考えさせ、実践にい活か して、知識・技能の定着・向上できるよう指導してい く。また、教え合い学び合いの中で主体的な態度を 育成していく。
-----	--	--